



じゅ命は、なぜあるの

すべての生き物にはじゅ命がある

人間だけでなく、動物や植物など、すべての生き物は、永遠に生き続けることはできません。ですから、わたしたちは、じゅ命がなぜあるかについては、「すべての生き物にはじゅ命がある」と、あるがままに受け取るしかないのです。

じゅ命というのは、「何才くらいまで生きられるのか」ということで、今、生まれたばかりの赤ちゃんが、この後、何年生きられるかを、計算して出した年数のことです。

正しくは、「0才児の平均余命」といいます。

平均余命は、アメリカ人ならアメリカで、日本人なら日本で、それぞれの国で計算されて出されます。それによると、日本の「0才児の平均余命」は女の人でおよそ82才、男の人でおよそ77才と、どちらも世界一長く、日本人は世界一長生きの人間といえます。

人間は何才くらいまで生きられるか

じゅ命には、平均余命とは別の点から研究したものもあります。それが、「限界じゅ命」と「最大じゅ命」といわれるものです。

「限界じゅ命」というのは、世界の人を全部いっしょにして研究し、人間があといくらい生きられそうかという点から、平均を出したもので、それによると、およそ95才まで、人間は生きられるという結果が出ています。また、「最大じゅ命」というのは、長生きの人だけにしぼって、もし、人間がいちばん長生きをするとしたら、何才まで生きられるかを予想するもので、それによると、人間は最長120才までは生きられるという、結果が出ています。ということで、人間は何才くらいまで生きられるのかということになると、最長120才までは生きられるといえそうです。（監修・保志 宏）

